

オマーン湾事件：アメリカの主張が著しく疑わしい7つの理由

【訳者注】そんなことは知っていると言う人は、大勢おられるだろう。しかし、それを事実として知ることより、彼らがそれをやる態度の方が重要で、それはもはや尋常な態度ではない。前のアンドレ・ヴルチェックの記事にもあったように、彼らがほんの少し前までやっていたウソを「隠す」ということさえ、今は止めてしまった。つまり、人と関係をもつ人間としての、体をなさなくなった。「どうだ、このウソは！ まいったか！」と彼らは言っているようだ。最初に出ている、ポンペイ国務長官も、イランが犯人だという政府決定を記者団に発表するのに、早口で棒読みし、質問は断って退場した。この態度が彼の「意味内容」である。この本文で、それをうまく言っている——「時々、米務省の言い出すことは、我々の愚かさの限度を試そうと、我々に対して実験を行っているかのように見える。」(p.6) 言い換えれば愚弄である。この愚弄をニュースはまじめに報道している。

安倍さんは、何年前か、ウクライナのポロシェンコに会いに行った時のように、「戦争は止めてください」と言いに行ったのだろうか？ それはよいことだが、相手にどう映るか、世界にどう映るかは別問題である。

Caitlin Johnson, Information Clearing House

June 15, 2019



CIA 長官 (マイク・ポンペオ) :

「我々は：ウソをついた、騙した、盗んだ」

この動きに驚いた者は誰一人いなかったが、米務長官マイク・ポンペオは、木曜日、時を移さず、オマーン湾の 2 隻の船舶への襲撃は、イランの仕業であると発表した——何の証拠も示さず。 <https://twitter.com/realDonaldTrump/status/1139246407267815430>

<http://archive.is/57QRf>

「我々のこの判断は、情報部、使われた兵器、この作戦を行うのに必要なレベルの専門知識、最近のイランの同様な輸送船攻撃、それに、その海域のどんな代理の集団作戦も、これほどの高度の技術をもって行動する、技術も巧みさも持たないという事実に基づいたものである」と、ポンペオは声明で記者団に答えた。 <https://www.state.gov/secretary-of-state-michael-r-pompeo-remarks-to-the-press/>

「合衆国は、その軍隊と利益を守り、我々のパートナーや連合国と立ち上がって、地球的な商業や、地方の安定を護るであろう。そして我々は、イランの挑発的行為によって脅かされているすべての国家に、この努力に参加して下さるよう要請する」と、ポンペオは早口で結論を述べ、質問は全く受けつけなかった。

<https://twitter.com/medeabenjamin/status/1139255211099381760>

ここに、ポンペオの言ったすべてが、きわめて怪しげなものである7つの理由を述べる：

No.1： ポンペオはよく知られた嘘つきである、特にイラン問題で

ポンペオは、イランについて見え透いた嘘を言いふらすという、確認された歴史をもっている。彼は最近、テキサス A&M 大学で、自分が CIA を率いていたとき、「我々はウソをつき、騙し、盗んだ。その訓練のすべてをやった」と、聴衆に話した。

<https://twitter.com/caitoz/status/1139295412391731201>

<https://www.youtube.com/watch?v=DPt-zXn05ac>

No.2： 米帝国は戦争を始めるのに、通常、ウソとニセ旗攻撃を用いる

アメリカを中心にした武力国家同盟は、あらかじめ存在する軍事アジェンダを押し進めるのに、ウソ、ニセ旗攻撃、心理作戦を用いて、相手の政府を侵略者に見せかけるといって、長く、かつ、十分に記録された歴史をもっている。これが、あまりにもよく知られたパターンなので、(ベトナム戦争の)「トンキン湾事件」が、「オマーン湾事件」の後で、ツイッターで短く触れられた。政府の作業者がいくらでも、米、英、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、またはイスラエルといった同盟国から、何か国でも、これに参加できたであろう。

<https://www.corbetteport.com/warlies/>

<https://twitter.com/samhusseini/status/1139135338771877894>

No. 3: ジョン・ボルトンが公然と、軍事計画を進めるためのウソを公認

私が先月、これについて記事を書いたのは、トランプ政権がすでに、トランプのサイコパス的な、対イラン・タカ派の国家安全アドバイザーの、長年のアジェンダと完全に一致するやり方で、対イラン・エスカレートを、急速に進めていたからである。その当時、人々は、ボルトンが、ウソに基づくもう 1 つの中東戦争のヤラセに巻き込まれるだろうと知っていたので、The Onion 誌はすでにそれを茶化していた。

<https://medium.com/@caityjohnstone/that-time-john-bolton-said-its-good-to-lie-about-war-4b956c063caa>

<https://politics.theonion.com/bleeding-john-bolton-stumbles-into-capitol-building-cla-1834847900>

2010 年 12 月の「フォックス・ニュース」のエピソード “Freedom Watch” で、ボルトンとそのショーのホスト Andrew Napolitano が、最近のウィキリークスの発表を論じていて、自然に政府の秘密の話題に移った。

「ところで、国家安全の行使という問題になれば、私は政府の秘密を弁護したい。そしてそれが適切な場合には、おそらく騙すことも必要だ」と、ボルトンは言った。「ご存知のようにウィンストン・チャーチルは、第 2 次大戦中、戦時には真理が非常に大事なので、それはウソのボディガードで護られる必要があると言った。」

https://www.youtube.com/watch?v=MbVtROU9J_E

「あなたはそれを本当に信じているのか？」と、信じられないというように、ナポリターノは尋ねた。

「もちろんだよ」と、ボルトンは答えた。

「真理を護るために、あなたはウソをつくということか？」

「アメリカの国家安全を護るために、ウソだとわかっていることを言わねばならないとしたら、私はそうするだろう」と、ボルトンは答えた。

No. 4: イラン戦争開始のためにニセ旗を使うことは、DC の泥沼で帰結の問題

去る 2012 年、近東政策シンクタンクのワシントン・フォーラムで、このグループの研究所長 Patrick Clawson は、イランとの戦争を挑発するために、ニセ旗を使う可能性について公然と話した。 <https://www.businessinsider.com.au/top-researcher-suggests-israel-get-nastier-with-iran-sink-sub-illicit-false-flag-2012-9?r=US&IR=T>

「私は正直なところ、危機を作り出すことは非常に難しいと思う。アメリカ大統領が、我々をイランとの戦争に引き出す方法は、ちょっと考えつかないのだ」とクローソン話し始めた。

「そこで結論せざるをえないのは、もし本当に妥協が無理ならば、アメリカが戦争に達する伝統的な方法は、アメリカの利益にとって何がベストかということだ」と、クローソンはつけ加えた。

「ルーズベルト大統領は、我々を戦争へ引き込みたいと思っていた、と考える人があるだろう。…我々は、パール・ハーバーまで待たねばならなかったことを、思い出すがよい。ウィルソン大統領も我々を、第 1 次大戦に引き込みたかった。我々は〈ルシタニア号〉のエピソードまで待たねばならなかった。ジョンソン大統領は、我々がベトナムにのめり込むまで待つてほしかったのだと、思う人もいる。我々は〈トンキン湾事件〉まで待たねばならなかった。スペインとの戦争の場合も、〈USS=米軍艦メイン号〉の事件が起こるまで、戦争をしなかった。そしてまた、リンカン大統領の場合でも、Sumter 砦が攻撃されるまで、彼は軍隊を呼び出せると考えなかったことを、思い出していただきたい。だからこそ彼は、サムター砦の司令官に、サウスカロライナが攻撃してきそうなことを仕掛けよ、と命令したのだ。」

「だから、もし本当に、イラン政府が妥協してこないなら、誰か他の者が、この戦争を始めるのが最上なのだ」と、クローソンは続けて言った。「制裁の他に、別の圧力の方法を加えればいいのだ。あの 8 月 17 日の爆発は私の提案したものだ。我々はプレッシャーを増していくことができる。皆さん、ごらんください。イランの潜水艦が定期的に沈没しているではないか？ いつかその一隻が浮かび上がらないかもしれない。なぜか知る者はいないだろう。[聴衆からサイコパスのエヘヘという笑い] 我々は、プレッシャーを増してやろうと思えば、実にいろんなことができる。私は宣伝しているのではない、ただ私は、あれかこれかの問題ではないと言っているのだ。ただ制裁だけでは、成功するか、しないかということになる。我々は、イラン政府に対して正攻法のゲームをやっている。これだと前よりもっとひどいことになる。」

No. 5: 米 국무省は一般向けのイラン物語を操る心理作戦を、すでにやっている

国務省高官は、月曜日の密室会議で、議会スタッフに、150万ドルの troll farm（ニセ情報資金？）がその「指令の限度を超えてしまった」ことを認めた。それは、トランプ政権のイラン政策に対するアメリカの批判者たちを、イラン政府の宣伝屋だとして、激しく攻撃することにある。その「指令」は、「イランから出た反自国プロパガンダ」だと言われ、反イラン・プロパガンダを誘導するものとして知られている。

「ワシントンの批判者たちは、一歩進んで、このプログラムは外国の独裁政権で使われるトロール・ファームに似ている」と、インデペンデンス紙は言っている。

「この迫害キャンペーンの背後にあるのは、長年のイラク-アメリカ人の女性活動家で、彼女は、国防省から長年にわたり数十万ドルを受け取っており、〈表現の自由と情報アクセスの自由〉をイランに対して唱えている」と、同報告は言っている。

No. 6： オマーン湾物語は意味をなさない

この攻撃で損傷を受けた船舶の1つは、日本国籍のもので、もう1つは日本に向っていた。これは日本の首相、安倍晋三がテヘランにいて、トランプの祝福を受けて、米・イラン間のエスカレーションの緊張を、ほぐすを試みているときに起こった。それは、イランが友好のジェスチャーとして、アメリカのためにスパイを働いた者を、釈放した直後のことだった。

<http://archive.is/57QRf#selection-4155.0-4155.362>

<https://news.yahoo.com/iran-frees-lebanese-man-convicted-spying-us-161347046.html>

イランは、アメリカやその連合国からの、無慈悲な制裁と挑発にもかかわらず、かなりの自制をもって振舞ってきた。その国が、急に自制を捨てて、よその船舶を攻撃し、次にその乗組員を救出し、次に攻撃したことを否定し、一方で外交的交流を行い、またヨーロッパとの核取引を続けようとする——こんなことは全くあり得ない話である。もし、テヘランが、ひょっとして、アメリカに強いメッセージを送るために、こんな攻撃をしたのなら、非常に不気味なやり方で、非常に奇妙なタイミングで送った、不思議なメッセージということになる。

<https://twitter.com/jwcglaser/status/1128105026780651521>

<https://www.bbc.com/news/world-middle-east-48619771>

<https://www.aljazeera.com/news/2019/05/eu-rejects-iran-nuclear-deal-ultimatum-regrets-sanctions-190509092136144.html>

No. 7: かりにイランが攻撃したとしても、なおポンペオはウソをついている

ポンペオの声明は、「挑発していない」という言葉を2回、「イランの挑発行為」という言葉を1回使っていて、アメリカ帝国は自分のことをやっていただけで、誰かに暴力的に、晴天の霹靂のように、攻撃されたとき、イランのことなど知らなかった、とはっきり主張しようとしている。時々、アメリカの国務省の言い出すことは、我々の愚かさの限度を試そうと、我々に対して実験を行っているかのように見える。

<https://www.state.gov/secretary-of-state-michael-r-pompeo-remarks-to-the-press/>

同じサイトの、Moon of Alabamaの記事や、Ron Paul Liberty Reportに述べられているように、アメリカはイランを、極端に侵略的な、ますます強めていく制裁によって挑発している。これは、たとえイランが攻撃の背後にいたとしても、それは侵略者でなく、攻撃は「挑発されない」ものでは絶対になかったことを意味する。経済的な制裁は戦争行為である。もし中国が万一、アメリカの経済に対して、アメリカがイランに対してやっていることをやったら、アメリカは中国に対して、直ちに熱い戦争に入るだろう。イランがアメリカの侵略と制裁に対して仕返しすることは、技術的に可能である——奇妙な、ネオコンサーバティブなやり方であっても。

<https://www.moonofalabama.org/2019/06/todays-attacks-on-ships-in-the-gulf-of-oman-are-not-in-irans-interest.html#more>

<https://www.moonofalabama.org/2019/06/todays-attacks-on-ships-in-the-gulf-of-oman-are-not-in-irans-interest.html#more>

<https://www.fff.org/2017/09/08/sanctions-act-war/>

いずれにせよ、我々は、ポンペオの主張を確認するどんな証拠も見えていない。したがって、誰であろうと軽率に、イランがオマーン湾事件をやったのだと言う者は、戦争売女か、どうしようもない痴ほうか、それとも両方である。アメリカ中心の帝国と、ずっと前から存在する、イランに対する政権転覆アジェンダを知っているならば、ポンペオを信ずるいかなる理由もなく、信じてはならないあらゆる理由がある。

https://www.youtube.com/watch?v=FNt7s_Wed_4